榛名神社社報

発行日　平成七年七月十五日
発行所　沼田市榛名町二八五一
電話〇二七八㉒二六五五
㉓五一二二
発行人　金子浩隆

榛名神社由緒

榛名神社は、沼田・利根発祥の地に鎮座し、三柱一座の神が祭られている。

埴山姫の命（はにやまひめのみこと）
日本武尊命（やまとたけるのみこと）　三柱
菅原道真命（すがわらのみちざねのみこと）
諏訪大神（すわおおかみ）―一座

日本武尊は上野国神名帳利根郡の部に従一位宝高明神として滝棚の栗林に鎮座せられ、菅原道眞命は従二位碓（うすね）根明神として根岸（現在の社地）に祀られていた。

そして埴山姫命は享禄三年（一五三〇）に沼田万鬼斉顕泰が幕岩城から倉内城に移る時、そこに祀られていた宝高明神を城の西下の碓根明神の社に遷し、顕泰の妻の産土神（うぶすな）である榛名大権現（埴山姫命）を勧請して三神を一社に祀り神社の名前を「榛名神社」と称した。

諏訪大神は神社の西の諏訪神社を明治四十一年に合祀した。

当社は沼田氏、真田氏、本多氏、黒田氏そして土岐氏と代々城主の尊崇を受け、特に本殿は元和元年真田伊豆守信幸公の奉建であり、木造大鳥居は老中本多伯耆守正永公の奉献である。

明治六年郷社に列し、昭和三年県社に昇格したのであるが、昭和二十一年に社格廃止以来は宗教法人となり利根沼田の総鎮守と称せられている。

社頭講話

名誉宮司　金子安平

真の宗教

世の中が騒がしくなって人間らしさが消えてゆく、淋しい事である。米ソの対立がなくなったから世界は平和になると喜んだのも束の間であった。

家庭の中でも対立が融けず悩みがつきない。経済が楽になりながら却って問題が多くなったのは何故だろうか。

それは自分のみを大切にし、相手の事を考えないからである。人と云う字は一人では立てないから互に扶け合うと云う形である。

ここに真の宗教がある。自分だけで悟りきるのでなく、世間の人と一緒になって楽しく暮らす。こゝに宗教がある。

神社は心の故里

真の宗教の中で、日本人の持つ宗教は神社であるが多くの人はつい忘れ勝ちである。古い祖先の頃から神社は心の発生地として信心されて来た。それなのに物にのみ走った人達は心を失って了った。

お宮の庭、そこには祖先の魂が宿っている。お宮の建物そこには郷土の歴史が輝いている。

試験勉強に疲れたら神社へお参りして下さい。家事に疲れたらお宮参りして下さい。きっと心が安まり、身体が楽に休まる筈です。

神社では腰かけを用意し、涼しい木蔭を作り、神職はすべてを準備して話しかけ・問いかけを待っています。

真の人間

お宮参りする人は人間味が増します。又お参り出来なくとも心でお参りする人も立派になれます。

真の人間とは
素直（すなお）に　明るく　逞しく
なる事です。

人の話はすなおに聞き、世の姿を明朗に見つめ、そして自分自身を逞しく育てる。

榛名の宮にお参りして一層すなおに明るく逞しく生きてほしいものです。

正しい結婚式

結婚式は人生儀礼の中では一番大切な儀式です。だからこそ一番正しい挙式が望まれます。

正しい結婚式、それは天地の神々に祝福され、両家の御先祖さまに喜ばれる事です。それには仏前であれ、基督の前であれ、尊いお方の前が大切であり、中でも神前の形が大番普通ですね。

榛名神社では、先ず親族一見の儀・手水の儀・鳥居をくぐり巫女の導きで社殿に参入・三三九度お盃の儀・親族固めの盃の順に執り進めます。雅楽の響きの中五名が奉仕します。

地方の儀式としては一番荘重・古式に叶う結婚祭式と云われています。

おぎょん

「蚕すんだら沼田のまつり連れて行くから辛抱おしよ」

「おぎょん」の呼名で親しまれている祇園祭は京都祇園に鎮座する八坂神社の御祭神、牛頭天王を勧請した須賀神社の祭典でした。が、祭を発展させる為、お殿様からの呼びかけがあり、須賀、榛名両社合同の祭典となり、沼田全体の祭となったのです。

八月三日は渡御の日。早朝、参与、総代の参列の下、遷霊神輿発幸祭が執り行われ、榛名大神の御神体に神輿へお遷りいただき、いよいよ渡御の開始です。これは、いつもは神社に鎮まる大神が、自ら神輿に乗り、氏子の家を一軒一軒とお渡りいただく神事です。氏子区域全域の渡御を終え、仮宮にて御輿着御祭が執り行なわれます。

八月四日は、仮宮の神輿の御神前において、十時より古式にのっとった恒例大祭が執り行なわれ、氏子の繁栄、世界の恒久平和が祈られます。

八月五日は還御の日。仮宮より神輿を無事神社へお戻しする神事です。夕方、仮宮を発幸した神輿は、奉仕団の掛け声も勇ましく、お祭広場、歩行者天国内を一周し、市役所前お祭広場で、須賀神社御輿、各町山車との競演をします。

一路榛名坂を下り、平成御大典記念の大鳥居をくぐる頃には、地元の大勢の氏子の出迎えを受け、たくさんの提灯のあかりの下、参道を進みます。境内でひとしきりもんだ後、神輿の横棒がはずされ、石鳥居をくぐって全力疾走で一気に社殿へと入って行き、やがて静かに納められます。

その後、神輿着御祭が執り行なわれ、宮司の手により、御神体が本殿高御座へと安置され、当番町代表による万歳三唱をもって三日にわたる榛名神社祇園祭は終了します。

平成七年　祭事暦

一月　一日　歳旦祭
朝八時、新しい年の新しい月の新しい日を祝し、朝日の豊栄登に一年の健康と幸福を祈願する。

二月　一日　月次祭
毎月一日、大利根の里の繁栄と氏子の健康とを祈願する。

二月十一日　紀元祭

三月　一日　月次祭

四月　一日　月次祭

四月　八日　例大祭
御主神埴山姫命（榛名大神）の勧請、鎮座より、この日が大祭と定められ、一年で一番大切な祭となっている。元県社ということで、神社庁より献幣使を迎え、多勢の参列の下、五穀豊穣、氏子の繁栄と世界平和が祈願される。太々神楽の奉納も行なわれる。

五月　一日　月次祭

六月　一日　月次祭

六月三〇日　六月大祓（夏越の祓）
六月大祓は一年の上半期の、そして師走大祓は一年すべての罪、穢（けがれ）を祓（はら）い去る儀式である。宮司とともに参列者が大（おお）祓詞（はらいことば）をのべた後、紙の人形を使い体の中の罪、穢を拭い取り、ワラでできたツトッコに入れ、川に流し去る。

七月　一日　月次祭

八月　一日　月次祭

八月三・四・五日　恒例大祭

八月二十日（旧七月二十四日）諏訪祭
明治に合祀された諏訪大神のお祭。沼田全体がお諏訪様の生子（うぶこ）という考えから、この祭は沼田一円のお祭であったが氏神の祭ではないのですべて一廻り小型で行われた。大正末期までは榛名町と柳町にはお諏訪様のまんどうもあった。また、二四日には御祭神の御神徳に因み、必ず三粒以上の雨が降ると信じられている。

この祭は二四日が宵祭、二五日が本祭であるが、二五日には一年間に親を失った人だけが参詣する慣わしで、その人達は、参詣以外は外出してはいけないので、親類近隣の者の方がその家にカゲ見舞をすることとなっていた。

九月　一日　月次祭・風祭
風祭（かざまつり）は地元農事組合の主催により九月月次祭と合わせて執り行なわれる。

境内の大きな木に天高くおぼんでんを掲げ風の神級津彦（しなつひこ）・級津姫の命を招き、秋の収穫を迎え、荒き風、悪しき水の害を受けぬよう祈願する。

一〇月　一日　月次祭

一〇月一五日　大国大祭
枝社として奉られている商業、交通の神、大国主の命の祭。他の神社の秋祭にあたり、収穫への感謝、商売繁昌、交通安全が祈られる。